

第2学年「生き方」指導案

1 単元名 インターネットと自分

2 単元の目標

- 【分かる】 インターネットやSNS等の間違った利用が人を苦しめ、辛い思いにさせ、重大な人権侵害を引き起こしていることが分かる。
- 【深める】 仲間との語りを通して、自分の中にも主人公と同じような安易に行動してしまう心の弱さがあることに気付き、自分自身を深く見つめ直すことができる。
- 【育む】 まとめの活動を通して、自分の心の弱さを乗り越えて、よりよい生活をしていくために自分ができることを考え、自他を大切にすることを育むことができる。

3 単元指導計画

時	過程	ねらい	学習活動	・指導のポイント ○準備物
1	分かる (評価の観点・知識・技能)	今までの体験や実際に起きた事件を振り返ることを通して、匿名性の高いインターネット上では重大な人権侵害がなされていることが分かる。	課題：インターネットについて考えよう ①インターネットのよさを話し合う。【全体】 ②便利な反面、危険な目にあったり、人を傷付けてしまったことはいかに考えて書く。【個人】 ③書いた内容を交流する。【グループ】 ④ホワイトボードを黒板に貼り、交流する。【全体】 ⑤映像資料「ネットを通じた人権侵害」を視聴し、ネットを通じた人権侵害が様々な形で起きていることを確認する。【全体】 ⑥本時の感想を書く。【個人】	・感想用紙を回収後、机列表や名簿にまとめ、生徒の心の変容を捉えていく。 ・SNSによるトラブルなど身近な例を取り上げたり、大きな事件を取り上げたりしながら、匿名性が高いことや、非対面な側面が原因になっていることなどを押さえる。 ○映像資料「ネットを通じた人権侵害」、ワークシート、ホワイトボード
2		実際に起きた事件を調べることを通して、匿名性の高いインターネット上では、重大な人権侵害がなされていることが分かる。	課題：これまでに起きたSNS事件について調べよう ①前回の授業の仲間の振り返りを聞き、本時の授業内容を確認する。【全体】 ②これまでに起きたSNSの事件を調べ、ワークシートにまとめる。【個人】 ③調べてみて考えたこと、疑問に思ったことをワークシートに書く。【個人】	・「あなたはと思うだろう。」「自分が友達だったらどうだろう。」と気持ちに迫る問いを投げかけ、考えたことをまとめさせる。
3		インターネットによる人権問題の存在を知り、ちょっとした思いつきや軽い気持ちが大変になってしまう危険性があることが分かる。	課題：これまでに起きたSNS事件について知ろう ①調べた事件をグループで交流する。【グループ】 ②グループごとに発表し、事件について全員で考える。【全体】 ③考えたこと、疑問に思ったことをワークシートに書く。【個人】	・事件の内容だけでなく、加害者や被害者、その周りの人の気持ちまで想像させたり、考えさせたりすることを通して、様々な人権侵害が起きていることを押さえる。
4		友人への行いに悩む主人公の気持ちを考えることができる。	課題：インターネット上で起きる問題について考えよう ①映像資料「わっかカフェへようこそ」を視聴する。【全体】 ②主人公がトラブルになった原因を書く。【個人】 ③交流から主となる原因をまとめる。【グループ】 ④ホワイトボードを黒板に貼り、交流する。【全体】 ⑤映像資料「モーニングショー(木村花さん)」を視聴し、人の弱さが重大な人権侵害を引き起こし得ることを確認する。【全体】 ⑥本時の感想を書く。【個人】	・原因を考える中で、非対面な側面があるからこそ、自分の行動に対して制御が効きにくい状況に陥っていることを押さえる。 ・非対面的だとして制御が効きにくいのかを考えさせ、そこに人としての弱さがあることを押さえる。また、解決策を考えさせるのではなく、非対面であることで浮き彫りになった人の弱さに焦点を当てることができるようにする。 ○映像資料「わっかカフェへようこそ」、映像資料「モーニングショー(木村花さん)」、ワークシート、ホワイトボード
5	深める (評価の観点・思考・判断・表現)	あかりの気持ちを段階的に考えることを通して、人を恨んだり妬んだりする気持ちが行動に出てしまったことに気付き、人の弱さについて、考えを深めることができる。	課題：主人公の気持ちを考えよう ①映像資料「夕映えのみち」を視聴する。【全体】 ②感想を書く。【個人】	○映像資料「夕映えのみち」、ワークシート
6		あかりの気持ちを段階的に考えることを通して、人を恨んだり妬んだりする気持ちが行動に出てしまったことに気付き、人の弱さについて、考えを深めることができる。	課題：あかりの気持ちを考えよう ①ワークシートで内容を確認する。【全体】 ②あかりの気持ちを段階に分けて考える。【個人】 ③書いた内容を交流し、あかりの気持ちを考える。【グループ】 ④ホワイトボードを黒板に貼り、交流する。【全体】 ⑤あかりが掲示板を使った理由を交流する。【全体】 ⑥本時の感想を書く。【個人】	・②では、賞を取った時、仲間から祝福されている時、メールをもらった時と段階的に考え、嫉妬や恨み、怒りが増幅していく過程を押さえる。また、あかりがそのような気持ちをもつことに共感できるかどうかを問いかけることで、感情移入ができるようにする。 ・⑤では、嫉妬、優越感、怒り、悲しみ、不安など心の弱さは誰にでもあること、それらは他者を傷付けるものとなってしまふことを押さえる。あかりは、悪いと思う気持ちがあったが、感情をよくない行動に移ってしまったことを押さえる。 ○資料「夕映えのみち」、ワークシート、ホワイトボード
7	本時			
8	育む (評価の観点・主体的な学習に取り組む態度)	学習の振り返りや映像資料の視聴を通して、自分の弱さを乗り越えて、よりよい生活をしていくために自分ができることを考え、自他を大切にすることを育むことができる。	課題：自分の思いをもとう ①これまでの学習を振り返る。【全体】 ②映像資料「インターネットの向こう側」を視聴する。【全体】	・前時までの感想を取り上げながら、一連の学習を振り返る。 ○映像資料「インターネットの向こう側」
9		自分の思いを強くもち、相手を意識しながら分かりやすく発表することができる。	課題：学習を振り返り、自分の思いや考えを書こう ①作文用紙に自分の思いや考えを書く。【個人】 ②発表会に向けた練習をする。【個人】	・正論を書くためのものではなく、自分を見つめた結果、どんな考えに至ったのかなどを書けるようにする。 ○作文用紙
10		自分の思いを強くもち、相手を意識しながら分かりやすく発表することができる。	課題：自分の思いや考えを伝えよう ①発表会を行う。【グループ】 ②抽出生徒の発表を聞く。【全体】 ③学習のまとめをする。【全体】 ④感想用紙を切り取り、相手に渡す。【グループ】	・発表後に、口頭で感想を言うとともに、感想用紙にも感想や意見を書き、それを授業後に切り取り、渡すことができるようにする。 ・心の変容がある生徒を事前に抽出しておき、その思いを全体で共有できるようにする。 ○感想用紙

4 本時のねらい

自分があかりだったらどうするかを考えることを通して、正しくないと分かっているながら自分の満足感のために SNS で感情を表現してしまう心の弱さに気づき、SNS を使う際には相手の気持ちや結果などを考えることが大切だと考えを深めることができる。

5 本時の展開 (7 / 10)

過程	学習活動 ・予想される生徒の反応	留意点 ・指導のポイント ◆学びを深める技 ★葛藤を生み出す指導 ●語らいを生み出す指導
導入	①前時に考えた「あかりの気持ち」をパワーポイントで振り返る。 【全体】 課題 自分があかりだったら、どのように行動するだろうか	・あかりが掲示板に書き込みをしたのは、心の弱さがあったことを押さえる。
展開	②「自分があかりだったらどうするか」をワークシートに記入する。 【個人】 ③それぞれの立場や理由を交流する。 【全体】 ・腹が立つ気持ちはあるが、掲示板に書くことは相手を傷つけることになるから書かない。 ・嫉妬や怒りはあるが、悪口を書いて発散することはしたくない。 あるべき自分 ④「掲示板」ではなく、身近な SNS であつたら自分はどうするかを考える。 【全体】 ・LINE であれば、見る人が特定されるから問題ない。 ・陰口は誰でも言うし、本心じゃない時もあるし、本人に聞かれない。 ・ストレス発散になる。誰か分からないように書けば、問題ない。 ・仲の良い友達には自分の気持ちに共感してほしい。 ⑤SNS を使う際に気を付けることを考える。 【個人】 ・自分は思ったことをすぐに言葉にしたり、文字にして伝えたりしてしまう。SNS を使う前に少し冷静になることに気を付けて、これを送ったらどうなるかを考えて SNS を使いたい。	・②では、「なぜそうするのか。」「具体的にどんなことをするのか。」「どんな気持ちがあるのか。」と問いかけ、自分の考えの根拠をもたせる。 ◆「自分だったらどうするのか。」という体験を引き出す発問をし、より現実的かつ自分事として考えられるようにする。 ・あかりのような気持ちはあるが、なぜ掲示板には書かないのか、理由を確認する。 ・④では、インスタグラム、グループLINE、個人LINE、陰口の順番で問いかけることで、より自分事として考えられるようにする。 ★葛藤を生み出す指導 ④では、「掲示板には書き込まないけれど、身近な SNS だったら、あなたは どうするだろう。」と問いかけることで、「あるべき自分」と「弱さをもった自分」との間に生まれる葛藤を意図的に生み出す。さらに、生徒の発言に問い返し続けることで、心の奥底に根付く差別につながる意識に気付かせ、より強い葛藤を生み出す。 弱さをもった自分 弱さ 自分勝手な考えや決めつけがある 「それを聞いたり見たりした仲間は どう思っているだろう。」 弱さ 悪口が差別や偏見、迷惑に繋がると考えられない 「自分の感情をそのまま言葉や文字にして表現することって、どうなのだろう。」 「伝わったらまずいと思っているということは、悪い気持ちがある。なぜ、言ってしまうのだろう。」 弱さ 自分の満足感のためだけに動いている ◆「本当にそうなのか。」という判断についての吟味をする発問をし、「あるべき自分」と「弱さをもった自分」の間で生徒の心を揺さぶる。 ●語らいを生み出す指導 葛藤が明らかになった後に、「あなたはどんなことを思ったか。」と問いかけて語らいを生み出したり、その仲間の言葉について、「あなたは どうだろう。」と他の仲間を巻き込んで活性化させたりする。 ・⑤では、「なぜだろう。」「どんな弱さがあるだろう。」と聞き、根拠ある語らいを生み出す。 ・自分から発表する生徒を待つ。
終末	⑥本時の感想を書く。 【個人】 自分は SNS が正しく使えていると思っていたけど、何か不満があると共感を求めて悪口を言ってしまう弱さがあることに気付いたので、悪口やうわさを言うために SNS を使うことはやめたい。	・授業の最初と最後で変容が分かるように書き方の指示を出す。 評価規準【思考・判断・表現】 正しくないと分かっているながら自分の満足感のために SNS で感情を表現してしまう心の弱さに気づき、SNS を使う際には相手の気持ちや結果などを考えることが大切だと考えを深めている。